

2023年5月17日ぎふチャンラジオ  
「今日もラジオは2時6時」放送原稿

20230517 自然写真家 篠田通弘

2023年 天然記念物「金生山ヒメボタル」と  
「金生山姫螢」観察会のお知らせ

5月も後半になってホタルが話題に上るようになりました。今日は川沿いに生息するゲンジボタルではなく、一生を陸で暮らす陸生のヒメボタルのお話です。

岐阜県大垣市赤坂町に金生山という標高145mほどの低山があります。山頂一帯は金生山明星輪寺というお寺の境内地ですが、そこに大垣市天然記念物金生山ヒメボタルが生息しています。日本で4か所が天然記念物指定されているヒメボタルのうちの1つが金生山ヒメボタルです。

金生山ヒメボタルは川とは関係なく一生を山で暮らす陸生のホタルです。オスで約9mm、メスで6mmほどとゲンジボタルと比べてずっと小さいホタルです。メスは後翅が退化しているので飛ぶことができません。ゲンジボタルが夕方から宵の口にかけて最も光るのに対して、金生山ヒメボタルは初夏の深夜に1秒間に約1.6回フラッシュのように鋭く光り、まるでイルミネーションのように見えます。今日はヒメボタルの今年の様子と来月開催の「金生山姫螢」観察会のお知らせをします。

## 1、今年のコ生山ヒメボタルは？

2023年は5月15日に初螢を観察しました。近年で最も早い初螢は2021年の5月14日でしたが、今年のコメボタル初見日は過去10年間では2016年と並んで2番目に早かったです。毎年のことですが初螢を確認するまではやきもきしますが、今年も発光活動が始まったことを確認して安堵しています。例年初螢から2週間程度でピーク状態に入ります。

ヒメボタルは昆虫で、卵・幼虫・サナギ・成虫と4つに姿を変える完全変態をします。幼虫は卵から孵化した後に約40個の陸貝を食べて成長します。4回の脱皮を繰り返した後、4月に土の中で土繭を作ってサナギになり、5月後半の雨降りの翌日に柔らかくなった土繭を破って羽化すると考えられています。

これまで許可を得て年間40日、14年間でおよそ400日間の深夜の観察を続けてきました。春の大型連休明けから初螢を見逃さないように、毎夜0時をはさんで3時間近く山の中でじっと闇を見続けています。私はホタルなどの昆虫には門外漢の自然写真家にすぎませんが、この観察を通して少し分かってきたことがあります。

ヒメボタルが羽化するには気温の上昇に加えて一定の降水量が必要なようで、成虫として羽化するタイミングは羽化前の降水と関係するようです。過去の観察結果と大垣市禾森町のアメダス観測地点のデータを照合すると、ソメイヨシノの満開を目安として4月1日を仮の起算日としたとき、そこから気温の積算が700°C、降水量の積算200mmが1つの目安となるように思われます。

しかし降水量は単純な積算ではなく、羽化のタイミングに合わせて適度な降水があることが必要なようです。今年の発光活動は仮の目安通りに始まったようです。

## 2、「金生山姫螢」観察会の開催

2023年6月3日（土）、10日（土）に金生山自然文化苑保存会主催 第16回「金生山姫螢」観察会が開催されます。2回開催しますがそれぞれ観察地点が違うので、両日参加された方は異なるシーンのヒメボタルをご覧ください。参加費は環境保護協力金として一人100円（中学生以上）です。

22時開始です。例年夕方頃に来られて「どこに光っているのですか」と聞かれる人がたくさんいらっしゃいます。金生山ヒメボタルは深夜に光ります。そのため22時開始としています。最初に山門コンサートでアルパ奏者高木葉子さんのコンサートを鑑賞していただきます。アルパは南米パラグアイの民族楽器で、アルパの曲として作られたコーヒー・ルンバが有名です。深夜に華やかなアルパの音色はヒメボタルの鋭い発光とよくマッチします。アルパコンサート後は、西濃陸産貝類研究会の河合敬招（のりつぐ）さんの陸貝とヒメボタルのお話を聞いて勉強していただきます。金生山の陸貝は岐阜県天然記念物です。大垣市天然記念物ヒメボタルの幼虫は岐阜県天然記念物の陸貝を食べて育つという、たいへん贅沢な昆虫とも言えます。勉強の後は、明星輪寺住職富田精運さんの案内でヒメボタルを見学していただきます。金生山ヒメボタルの光る様子を初めてご覧になる方は、その美しさにきっと驚かれると思います。

なおインターネットの旅行情報を紹介するページにホテル観賞イベントが紹介され始めましたが、ほとんどがゲンジボタルの鑑賞会です。金生山のようにヒメボタルの観察ができる観察会は数少なく貴重です。

- ヒメボタル写真教室・撮影会の受付は終了しています。観察会当日はカメラやスマートフォンなどによる写真撮影はできません。
- ヒメボタルは生きています。ライトや虫除けスプレーなどの使用は禁止です。肌を露出しない服装でお出かけ下さい。
- 観察会当日は午後10時から深夜1時半まで車の通行はできません。1時半より前に帰られる方は麓に駐車してお越しください。
- 観察会への参加申込は不要です。
- 天然記念物ヒメボタル生息地は明星輪寺の私有地です。ヒメボタル保護のため観察会以外の夜間立入は禁止されています。

ぜひ観察会へお出かけいただき、ヒメボタルが命をつなごうと必死に輝く様子を観察して下さい。明星輪寺HPにチラシ・ポスターを掲載しています。

問い合わせは事務局（明星輪寺 0584 71 0124）まで。